

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2018年3月17日
<p>出演者：金平茂紀、膳場貴子、日比麻音子 巡田忠彦(死刑制度について取材を続けている記者) ※日下部キャスターは取材のためお休み</p>		
<p>検証テーマ：北朝鮮問題、中国全人代、アメリカの台湾旅行法、昭恵夫人と社会福祉イベント 【特集】森友問題</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米朝首脳会談に向けての北朝鮮の動き ・東京多摩市で殺人事件、被害女性の元交際相手の男性が神奈川県警に出頭 ・中国全人代 ・アメリカの台湾旅行法 ・山形新幹線、車内でカッターナイフを持った男性が騒ぐ事件 ・麻生希、自宅に覚せい剤所持 ・昭恵夫人が愛知県社会福祉イベントに出席 ・アメリカ映画会のセクハラ問題、アカデミー会長に疑惑 ・地下鉄サリン事件から23年 ・千葉県、5～7歳の少年が池に落ちて死亡 ・東京で3月17日、開花 ・【特集】森友問題 ・【特集】オウム死刑囚、七人が東京拘置所から各地の拘置所に異例の大規模位相 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮問題 <p>北朝鮮のリ・ヨンホ外相はスウェーデンのバルストロフ外相と二度の会談を行ったこと、米朝首脳会談についてスウェーデン外務省は首脳会談の開催場所の提供も含め仲介役を果たす姿勢を見せていることが報じられた。また、こうした北朝鮮の動きを受けての訪米中の河野外務大臣は米朝首脳会談で拉致問題への言及と圧力の継続を求めていることが伝えられるとともに、河野外務大臣の「完全、検証可能なかつ不可逆的な核・ミサイルの法規を実現させるために最大限の圧力を維持する必要がある、述べ、ほぼ、というか一致いたしました。」というコメントが紹介された。このトピックについてあてられた時間は165秒であり、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。</p> ・中国全人代 <p>全国人民代表大会で習近平国家主席の盟友である王岐山氏が国家副主席に就任したことが報じられた他、王岐山氏は一期目の習指導部で事実上のナンバー2として汚職撲滅キャンペーンを指揮し習主席の政敵を次々と失脚させたことや、去年秋の共産党大会で68歳定年の慣例に従って最高指導部を退任したが今年の全人代の代表として異例の復活をとげたこと、対米交渉を担うと見られていることなど、王岐山氏について紹介された。このトピックについてあてられた時間は103秒であり、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。</p> 		

・アメリカの台湾旅行法

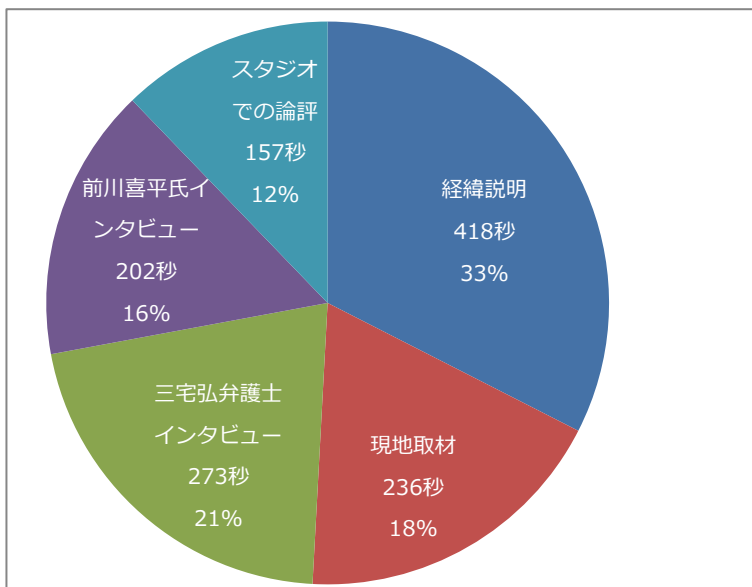
アメリカのトランプ大統領が台湾との間で閣僚や高官の相互訪問を促進するための法案に署名したこと、台湾旅行法はアメリカの閣僚や高官などを含むあらゆる地位の当局者が台湾に渡航し台湾側の当局者と会談することや台湾の高官がアメリカに入国し国務省や国防総省の当局者と会談することを認めるものであること、および一つの中国を主張する中国の反発は必至であることが伝えられた。このトピックについてあてられた時間は 68 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・昭恵夫人と社会福祉イベント

昭恵夫人が愛知県東海市で行われた社会福祉に関するイベントに出席し、障害者や社会的に弱い立場にある人たちの生き方や支援の在りかたなどについて障害者の男性と対談形式で意見を交わしたことが報じられると共にイベントでの昭恵夫人の「人それぞれが得意な分野を活かせるような社会になればいいなというふうに私は思っています。」という発言が紹介された。また、昭恵夫人は今日のイベントで森友問題に言及せず、イベント終了後は報道陣の取材に応じることなく会場を後にしたことも併せて伝えられた。このトピックについてあてられた時間は 56 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題となる箇所はなかった。

・森友学園問題

森友学園問題についての特集が行われていた。このトピックについてあてられた時間は秒で、このトピックでは経緯の説明、現地への取材、政府の公文書管理委員会のメンバーである三宅弘弁護士へのインタビュー、前川喜平前文部科学事務次官へのインタビュー、スタジオでの論評の大きく 5 つのポイントがあった。それぞれのポイントにスポットのあつた時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯の説明では森友学園を巡って新証言がでてきているとのことや、財務省による決裁文書の改竄、佐川国税庁長官の辞任について説明された他、国会では野党が追求を強めているとして共産党の山下芳生参院議員の「国民を欺き国会を欺いた内閣は総辞職に値すると言わなければなりません。」という発言や野次や追求に対して苛立ちを隠せない麻生財務大臣として麻生財務大臣の「やかましいなあ、聞きたい？答弁 はい、では静かにしていただけますか？」という発言が取り上げられた。また、自民党内からの声として村上誠一郎衆院議員「安倍さんはこう

いう今回の色々な一連の問題について李下に冠を正さずじゃないけれどもそれに対するトップとしての責任をもっと猛省していただきたい。」という発言や野田毅衆院議員の「まともな行政をしてればなんにも説明いらぬのよ、特異な扱いをしたことだから少し、説明が言ったんじゃないですか。」という発言が紹介された。また、官邸前のデモの様子も取り上げられていた。

現地取材では、当初から森友学園について追及していた大阪府豊中市の木村真市議へのインタビューや現地住民へのインタビューが取り上げられた。なお、木村真市議へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが VTR で取り上げられていた。

金平茂紀「木材があのまま、もったいないですねえ。」

木村真(大阪豊中市市議「本当にピタッと止まってもうみんな引き揚げてそのまんまっていう。」

金平茂紀「教室の中も木で作ったやつが途中までできているんですね。あれ。あれが多分、給食室、厨房ですよこれ。なんかステンレスの機材。料理機みたいなのがいっぱい入って。」

木村真「食育みたいなことには力入れてやるみたいなことを謳ってましたんでね。」

ナレーション「大阪、豊中市の木村真市議。国有地の売却に疑問を持ち、情報開会請求によって疑惑の端緒を掴んだ人物だ。今週出てきた、改竄前の決裁文書についてこう語る。」

木村真市議「一体この一年間はなんだったのか、ってね、結局これが最初に表に出ていけばですね、一気に今から始まる話っていうのを一年前にできてたはずなのに、安倍首相が一年以上前に自分や妻が関与していたら、総理大臣も国会議員も辞めると言っちゃてるわけですね、そういうことで言うと安倍さんが総理大臣をやっている限りはこの問題、真相究明というのはおそらくできないと思いますし、表沙汰になった問題その公文書の改竄ということについても、これ単に森友問題だけにとどまらずですね、この国の行政機構というかその基礎となる部分が本当にガタガタになっているんじゃないのかっていう。」

ナレーション「この問題の核心は国有地を売却する際、なぜ八億円も値引きされたのかという点だ。値引きの根拠となったのが地中から見つかったゴミだった。」

金平茂紀「ほら、そこに産業廃棄物保管場所ということになっている。掘り起こしてそういうことをやった痕跡がそのままになっている。」

木村真「ゴミ混じりとされている土砂が山積みになってて混入率 47.1%なんてことになってましたんでね、ゴミだらけでなければいけないんですけれども、単に土砂にしか見えませんでしたからね、アレ一体何やったんかっていうね。」

ナレーション「八億円を値引きした理由はゴミの撤去費用とされていた。しかし、ゴミを試掘した業者が大阪地検に対し嘘の試掘記録を作成したということが昨日新たにわかった。業者は地下 3.8 メートルにまでごみがあったとする記録を作成、しかし実際にごみがあったのは 3 メートルまでだったという。事実であれば、国が算出した値引き額の根拠が揺らぐ可能性がある。」

また、現地住民へのインタビューでは森友問題について住民の「みんな、これ信頼しなくなると思う」という声、これに対して記者が「子供たちが？」と質問すると「うん、と思います。だって嘘ついていいってことしてるんでしょ、つじつま合わせのために」と答える様子や、別の住民が記者からの「今の内閣ですね、そのまんまでいいと思います？誰も責任を取らなくて。」という質問に対して「まあ取るべきやと思うけど、これくらいのことっていいかわからんけど、困難でやめてしまっちは変わりがあまりいいのがないなと思うので。」と答えていた様子が取り上げられていた。

三宅弁護士インタビューでは以下に朱記したやり取りが VTR で取り上げられていた。

膳場貴子「書き換え前、書き換え後とありますけれども、一見してとにかくごっそりとなくなっているのがわか

りますね。」

三宅弘弁護士「公文書は民主主義の基盤であるとずっといい続けてきましたけれども本当に民主主義が壊れている、そんなところでですね、情報の自由な流れなんてありえないわけですから。」

ナレーション「こう語るのは政府の公文書管理委員会のメンバーである三宅弘弁護士だ。決裁文書の改竄問題が与えた衝撃は計り知れないと憤る。」

三宅弘「公文書はですね、国民共有の知的資源で現在と未来の国民のために説明責任を果たすためにある。もしもこれがわからずにですね、この森友学園の売買の問題が処理されずずっと闇の中に葬り去られるということになるとですね、実際に起ったことが全く将来もチェックできないわけですから、これは歴史に対する冒瀆ですよ。」

ナレーション「三宅氏は改竄が起きた原因について公文書管理における現行のシステムに問題があると指摘する。」

三宅弘「ワープロで打ってちょっと治すと上書きで保存できる。というそういうシステムの中で文書を作り変えることがかなり安易にできている。言うところで公文書管理に関する、文書の作成に関する甘い認識がこういう事態を引き起こしていると思いますし、電子データを電子データとして保存して変な削除や書き換え改竄が行えないようにするようないかなるソフトを直ちに取り入れて、こういう事が起きないように再発防止を図る、というのは公文書管理法の観点から必要になってくるかと思います。」

ナレーション「消えた年金問題などをきっかけに公文書の不適切な管理を見直す為作られたのが公文書管理法、七年前に施行された。」

ナレーション「だが、この法律の趣旨が理解されていない自体が近年続いている、と三宅氏は懸念している。例えば陸上自衛隊南スーダン PKO 舞台の日報問題、防衛省は保存期間一年未満という理由で廃棄したと説明したが後にデータが見つかった。」

三宅弘「南スーダンからの日報はですね、現地から一日に何十ページも贈ってくる文書がですね、これが公文書ではないという報告、総括報告を作ったらもう廃棄していいんだ、と。そんなことはないでしょう、と。国論を二分してですね、駆けつけ警護として派遣された人々のですね、日々の行動がそんな軽々に扱われてはいかん、という問題がありました。全く公文書管理法について、お役人の中で自分たちの業務を所管する法律だという意識が欠けていた、ということに尽きると思います。」

ナレーション「こうした公文書管理法軽視の姿勢が改竄につながったのだろうか。」

膳場貴子「刑事責任についてどういったものが問われる可能性があるのでしょうか。」

三宅弘「今回の改竄ないし書き換えは、権限のある人がやれば虚偽公文書作成罪、それから権限のない人がやれば公文書変造、それから国会の審議を書き換え後の文書でやったことによって国会の審議を妨げたということになると偽計業務妨害罪ということが犯罪として考えられますけれども、刑事責任を問うまでもなく、これは公務員としての倫理の問題、政治家としてこのようなことを許したことの倫理の問題。そのようなこともきっちり追及していく必要が出てくると思います。」

前川喜平前文部科学事務次官へのインタビューでは以下に朱記したやり取りが VTR で取り上げられていた。

ナレーション「文部科学省の前事務次官、前川喜平氏、官房長として答弁の調整など国会対応にあたった経験もある。」

金平茂紀「役所の決裁文書ってその元になるものです、それが答弁に合わせて書き換えられるとか、そういうことは前川さんの感覚から言って想定できるんですか？」

前川喜平(文部科学省前事務次官)「それはもう逆転していますね、話が、答弁に合わせて文書を書き換えるとい

うのはありえないことで、文書というのはそれまでの行政の意思決定のプロセスを表せているわけですからね。それをベースにして答弁をするわけですから、しかも、行政プロセスを示す文書というのはまあ本来的にこれは開示請求があれば開示すべき性質のものでですからね、開示されたときにそこに書いてあることと齟齬のないように答えるわけであって、非常にまあ言葉を、正しいかどうかはわからないけれども、大胆不敵な不正行為ですよ。それは、いいからやれと誰かが言わないと、通常の国家公務員の神経ではできないことだと思いますけどね。」

金平茂紀「佐川さんの号令のもとで全部やったと、しかも近畿財務局の現場に至るまでそういうことっていうのはありえないですか？」

前川喜平「私はちょっと考えられないですけどね、いいからやれともっと大きな力があつたんじゃないかなと思いますけどね。」

ナレーション「去年秋の臨時国会、森友問題が審議されることがなく冒頭解散となり総選挙が行われた。」

前川喜平「この間の選挙のもとになったその判断材料の元が実はこの決裁文書だったりするでしょ、つまり国民が判断する材料が間違っていたわけですから、これは本当に民主主義の根幹を揺るがす問題だと思いますね。国民を裏切る行為だと思うし、こうやって真正でない虚偽の情報ばかり流されてそれに基づいて国民が判断したらこれは国民の判断間違えますよね、そういう非常に民主主義の根幹に関わる問題だなと思いますけどね。」

ナレーション「証人喚問が行われる見通しの佐川氏については。」

前川喜平「公務員だったというよりも一人の国民としてはね、やはり知っておられることをありのままにお話しいただきたいなと思いますけどね、その方が佐川さんにとってもこれから二十年三十年と生きる人生の中で本当のことを話したほうがこれからの人生が行きやすいんじゃないかなという気がしますけどね。」

スタジオでは冒頭に金平キャスターが「公文書は健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源というふうに書かれています、それが政治家や役人の私利私欲で改ざんされていたとなれば、その国はもはや法治国家ではなく、公文書は廃棄物と同じになってしまいます、恥を知れと申し上げておきます。特集でお伝えします。」と発言していた他、VTR を承けて以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

膳場貴子「前川さんもおっしゃるようになりますね、昨日ね、内閣府公文書管理委員会の三宅弁護士と話をしている中で、去年の今頃にこの事実がもし出ていたら 10 月の選挙で同じ投票をしていましたか、と聞かれて私本当にはっとしたんですね、で正しい情報が国民に知らされないまま国会で議論が行われ、そして選挙が行われた、そう考えるとその選挙の結果選ばれた今の議員の構成ですとか政権の正統性さえ揺らいでいきますよね、私達ももっと怒ってもいい事態なんじゃないでしょうかね。」

金平茂紀「そうですね、前川さんも一体あの選挙ってなんだったんでしょうねってみたいなのを言ってきましたですけどね、私が申しあげたいことは 3 つあるんですけども今回の改竄事件で近畿財務局の職員の方 1 人が自殺されましたよね、上からの指示で文書を書き換えさせられたと言う趣旨のメモを残して自ら命を絶ったんですけどね非常に痛ましいことで親族の方に取材したんですけどね、気が動転しているのと悲しみで一杯でそっとしておいてほしいと言われました。こういう現場の苦しみと国会の答弁の内容の落差というのを見ると絶望的な思いになるんですけどね、もう一つは籠池夫妻ですね。もう 200 数十日も拘置所に入れられたままでですね、保釈申請が認められなくて家族の方も面会できないということになってもう証拠隠滅とか逃亡のおそれというのはちょっと考えづらいのでね、このあたりは裁判所とか検察庁ってのはどう考えているのかって思いますね。」

膳場貴子「今回の森友文書の改竄事件、朝日新聞の 3 月 2 日のスクープの記事で大きく動き出したんですね、」

金平茂紀「そうですね。たしかにそうなんですけれども、その原点というのは VTR にも登場した、あの豊中市

議の木村真さんとかね、市民グループが情報開示請求をしたら真っ黒な墨塗りの文書がでてきたり、あるいは裁判を起こして問題を明らかにしたということが非常に大きいと思うんですね。本来のチェック機能である検察庁であるとか会計検査院っていうのがもっときちんと機能してほしいと思いますね。で、敢えて申し上げますと僕らメディアも正念場を迎えているというふうに思います。」

大阪の豊中市の木村真市議についてはそれ以上の紹介がされておらず、市議会においてはどの政党・会派に所属しているのかとか、国政政党ではどの政党に近いのかといったことについては全く触れられていなかった。三宅弘弁護士については「公文書管理委員会のメンバーである」と紹介されていた。また、前川喜平前文部科学事務次官についても「官房長として答弁の調整など国会対応にあたった経験もある」という紹介に留まっていた。前川氏については現政権に批判的であることは周知の事実であるが、木村真市議と三宅弘弁護士の現政権そのものに対するスタンスは不明だった。特に、木村真市議については地方議員・政治家であり、森友学園を当初から問題視していた人物なのだからその政治的なバックグラウンドについてももう少し掘り下げることが文書改竄にとどまらない一連の森友学園問題の全体像に迫る上でも必要であったと思う。木村真市議に党派性があるのかなかろうがそれは問題ではないが、党派性の有無について伏せて取り上げる報じ方には問題がある。なぜなら、政治家にとってどの政党に近いのかというのは非常に重要な情報であり、木村真市議がどの政党や政治勢力に近い市議会議員なのかによって視聴者の受け取り方も大きく変わってくる可能性があるからだ。また、今回は特集ということでそうした所属会派などを紹介することについて時間的制約は問題とはならなかったと考えられる。そういう意味ではそうした政党との距離について一切言及しないという紹介の仕方は放送法第四条一項三号の「報道は事実をまげないですること」という点に照らし合わせると問題があるといえる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・森友学園問題→問題あり

森友学園を当初から問題視していた木村真市議について、所属会派や協力関係にある政党など政治的なポジショニングについて一切言及されていなかったが、これは政治的なポジショニングについても紹介されていた場合は異なった印象を視聴者に対して与える可能性が高いと考えられる。また、前川喜平氏についても「官房長として答弁の調整など国会対応にあたった経験もある」とのみ紹介されており、文部科学省の組織的天下り斡旋問題に深く関与していた人物であり、また前川氏の妹は中曽根弘文参院議員に嫁いでいること、また初等中等教育局の初等中等教育企画課長在職中には義務教育費国庫負担制度について「奇兵隊、前へ!」と題したブログを開設し小泉政権が推進した三位一体の改革の中で公立小中学校の教職員給与の国負担分が2分の1から3分の1に引き下げられたことを批判していた人物である。前川氏へのインタビューのVTRではこうしたことには一切言及されず、「通常の家公務員の神経」を前川氏に代弁させるような構成になっていた。これも、前川氏についてこうしたことを知っているのと知らないのとでは前川氏の語る「通常の家公務員の神経」についても視聴者の受け取り方は大きく変わってくる可能性が極めて高い。

そうした点で、VTRの一連の作りが特定の結論や印象へと視聴者を誘導する意図を有している可能性すらある報道であったと言える。

検証者所感

・森友学園問題

今回の報道はあからさまに事実と異なる報道をする、というよりは極めて重要な事実や情報について一部伏せるあるいは言及をせずに報道を行うというタイプの悪質さがあった。

政権の推進する政策に対して省内や霞ヶ関での喧々諤々の議論にとどまらずブログで批判論陣を張ったり、組織的な天下りで中心的な役割を担っていたような高級官僚が「普通の国家公務員の神経」を持っているのか、あるいは代弁できるのかという点については私、検証者個人としては甚だ疑問である。

もちろん、そういった情報を知ってなお、前川氏は「普通の国家公務員の神経」を持っていてそれを代弁できると感じる視聴者もいる可能性はある。しかし、前川氏についての情報を知った上でそう感じるのと、知らないがゆえにそう感じるのでは大きな違いがある。それは木村真市議についての扱いでも同様である。

スタジオでは膳場キャスターが「前川さんもおっしゃるようです、昨日ね、内閣府公文書管理委員会の三宅弁護士と話をしている中で、去年の今頃にこの事実がもし出ていたら10月の選挙で同じ投票をしていましたか、と聞かれて私本当にはとしたんですね、で正しい情報が国民に知らされないまま国会で議論が行われ、そして選挙が行われた、そう考えるとその選挙の結果選ばれた今の議員の構成ですとか政権の正統性さえ揺らいできますよね、私達はもっと怒ってもいい事態なんじゃないでしょうかね。」とコメントしていたが、前川喜平氏の人物や文科省時代の言動あるいは木村真市議の政治的立ち位置についてももっと掘り下げられていた場合とそうでない場合とで同じインタビュー内容を流しても視聴者は同じ印象や事実認識を抱くのだろうか、正しい情報であったり重要な情報が国民に知らされないまま国会で議論が行われ選挙が行われたということについては、まさに「敢えて申し上げますと僕らメディアも正念場を迎えている」と金平キャスターのいうとおりである。

報道中では何がどのように伝えられたかということのみならず、なにが伝えられなかったのか、という点についても今後も注視していきたい。

※参考資料

前川喜平氏のブログ「奇兵隊、前へ」(<http://gimukyoikuhi.blog.so-net.ne.jp/2005-11-02>)

木村真市議のホームページ「木村真とともに豊中を変える会」(<http://www6.plala.or.jp/kaerukai/profile.html>)